
もしもあの日に帰れたら

ふるぽん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

もしもあの日に帰れたら

【Zコード】

Z3380F

【作者名】

ふるぽん

【あらすじ】

私は現在31歳某大手企業のそこそこ要職についています。今はまだ、世間一般的に言う『勝ち組?』の部類に入っているといえます。しかしここに来るまで、今の自分になるまで本当に数々の恥ずかしい経験をしてきました。今会社において偉そうに指示を出したり、部下の教育をしたりしている自分がいる反面、数々の失敗をしてきた自分がいて、その両面を知っているたった一人の存在としてはなんとも恥ずかしい気持になります。この小説を通じて、その全てを告白しその度に何を考えどう行動してきたのかを伝えていきた

いと懶こます。

幼少編

『幼少編』

恥1『人生初の天敵』

1977年に私は生を受けました。どちらかといふと体は小さめ（今もです）、両親にとつて

最初の子供ということもあります。しっかりと愛情を受けて育ちました。3歳になり保育所に入った私は、人生で最初の天敵というものに出会います。

名前は丁地…。この日から3年間にも及ぶ長きに渡り、私は丁地に苦しめられることになります。体が小さく、良く女の子と遊んでいた私は当時のガキ大将丁地の格好の的でした。

毎日何かしらのいじめを受け泣かれる日々が続きました。

泣いてる暇があつたらかかっていく勇気を持っていたらと思います。今もその時の名残か、私は自分に不利な状況では戦うことから逃げてしまうところがあります。負けるかもしれない勝負に挑むことを学んでおけばよかつたと後悔しています。

今私のスタンスはあの頃から始まつたような気がします。もしもあの頃に戻つてやり直せるなら、駄目もとで取つ組み合いたい。

そして大きなものに立ち向かう勇気を手に入れたい。

*

恥2『リベンジ』

保育所時代が終わり小学校に入学。もちろん同じ校区の丁地とは同じ学校そして…

同じクラス。世の中嫌だと思っていると悪運を引き寄せるものです。しかし、小学校に入つてからの私と丁地の立場は入れかわったのです。

理由は小学校でできた友達でした。

保育所時代、近くには4つの保育所がありました。この4つの保育所で交流が行われ

その中でドッヂボール大会がありました。そこで既に友達になつていたのが丁山でした。

丁山とその後友達になつた工。この2人は両方ともガキ大将でした。しかも丁地よりも強い…

そのことで私は丁地は弱いと思い込み形成逆転。この時から6年間、保育所時代の丁度倍

いじめ続けました。小さい子は単純です。ほんの小さなことから勘違いし、自分のほうが強いなんて思っちゃいます。そしていつの間にか、いじめられっ子は小学校の中でも3本の指に入るいじめっ子に変身してしまいます。とはいっても、強いものに立ち向かう勇気を持つたわけではなく、弱いものを嗅ぎ分ける鼻を持つただけでした。丁山には結局逆らえず、小さな庭のガキ大将といった感じでした。丁山には当時の体格などからして負けるとは思つていませんでしたが、がむしゃらに向かっていく根性がなかつたです。負けたら格好悪いからという理由で

戦えませんでした。

もしもあの日に帰れたら、丁山に本気で挑む勇気を持ちたいです。

そしたら負けても何か変わつていったように思います。丁地は克服できても根本的な立ち向かう勇気は未だに手に入つていません。

*

T地にリベンジを果たした私でしたが、新しい仲間兼天敵T山に苦しめられることになります。小学校2年の時何かでもめて私1人が悪者になつた時がありました。相手方のリーダーはもちろんT山です。そしてクラスで学級会が始まりました。その時の先生も問題だと思いますが

私1人が廊下に出され、残りのクラスメイトで私に對しての意見を言わせ始めました。

内容は丸聞こえ。ほとんどT山が言つてゐるのですが、他の何人かもちらほらと…

私はその場にいれなくなり母の務める職場へと逃げ込みました。逃げて母に言えば何とかしてくれるという甘えがあつたのだと思います。

自分自身で戦う勇気がなかつたのです。

思い起こすと私は良く権力を傘に着ていました。たまたま近所に住んでいる子が小学校の

上級生で、何があると『上級生にいいつけるぞ!』ってT山を脅したりしていました。

T山は現に何回かこの上級生に泣かされています。

自分では戦わず人の力を借りて威張る私がそこにはいました。本当に恥ずかしい過去です。

もしもあの頃に戻れるのなら自分の力で戦う根性を持ちたいです。何回やられても立ち向かっていく勇気を手に入れたいです。そういう意味で保育所時代のT地はすごいと思います。

形成は逆転しいじめられるようになつても、絶対に立ち向かつきました。

泣きながら、殴られながらも向かつてきました。

あの姿勢は大人になつた今きっと役に立つてゐるよう思います。未だにあの頃と同じ根性なしの私は、今になつてやつとT地から学んでいます。

恥4『お漏らし』

*

小学校の2～3年当時、私は良く学校の帰りに我慢できずお漏らしをしていました。

大のほうです。

ほぼ毎日だったよう思います。

理由は学校で大便することができなかつたからです。

どこでどうなつたかプライドが高く、格好つけの私は大便をしていふことを周りに知られる

ことが恥ずかしかつたのです。今もその傾向はあります。もちろん今はお漏らししないですよ。ちゃんと仕事場では大便できるように成長しました。

本当に意味のない格好良さの定義を持っていたんですね。どこでそんな性格を身につけたのか

今でも理解に苦します。両親もそういうタイプではなかつたし…同様にお風呂では下を隠す傾向にあります。最近は隠すのが周りにとつては変にうつるので頑張つて出していますが、基本隠したいです。

自分にコンプレックスがあるのでしょうか？他人の評価を気にしきなのでしょうか？

別に恥じることのないことを恥じて、本当の恥をかく。そんな部分が私にはあるように思います。人間誰しもがそうでしじうが、周りから良く思われたいために本当の自分を隠すところがあると思います。私の場合特にその部分が強かつたのかも知れません。

現在に至つては大部分が変化してきました。これは考え方、価値観が変わつたからだと思います。もつと早くに今の価値観を持つことができていたら、もつと面白い今になつていたかもしません。そう考へると、もしあの日に帰れたら私が過去の私にしつかりと今

価値観を植えつけたいと思います。しっかりと自分らしく行動することを承認したいと思います。

今世の中に足りないことは、自分は自分のままでいいんだという承認をしてくれる人の存在だと感じています。過去の自分に、周りばかりを気にせず自分らしくあつていいのだと承認してあげたいと思います。

*

恥5『嘘つき』

私はこれまでたくさん嘘をついてきました。習い事のそろばんに行くのが嫌で指をのぞに突っ込んで吐いてみたり、眠いから風邪を引いた振りをしたり…昼ごはんに1000円もらつてお釣りはないと言い小遣いにしたり…でも一番の嘘は自分を格好良く見せるための嘘でした。

例えば小学校時代、私は少年野球をやっていました。その当時良く親戚と会う機会があつたの

ですが、そこで良く嘘の自慢話ををしていました。

柵超えのホームランを打つたとか、試合に負けてるのに勝つたとか…今考えると小学生の段階で柵越えは言はずぎでした。多分皆私の嘘を分かつていて聞いていて

くれたのだとと思うと、恥ずかしすぎます。

又、中学からはサッカーを始めました。ここでも良く両親に嘘の報告をしていました。

負けたのに勝つたとか、得点決めてないのに決めたとか…今になつて本当に格好悪いなと思います。

大人になつて自分の弱さや、恥ずかしいところをさらけだせる人間が本当の意味で格好良い人間だと気付きました。

もしあの日に帰れるなら嘘のないあつのままの自分で全てに接したいと思います。

*

恥6『立笛』

小学生時代の1大事件といえば私が6年生の時の立笛事件であろう。当時クラスの女子の中で最も大きく、男相手でも物怖じしない女子というのがいた。

彼女こそ学級会の伝統を作り上げた第1人者である。

当時学級会ではその日あつた嫌だったことを言つコーナーがあつた。それに対し該当者は謝罪するというものであったのだが、ある日この謝罪のあとに

いいですか？つまり許してくれますか？といつ言葉を付け足すこととなつた。

普通はどんな態度であれ悪ををする奴等の謝罪とあつて、謝罪は簡単に受け入れられていた。

しかし、女子はこの文化を変えた。

女子はいいですか？の問いかけにほぼ100%黙り出しあした。聴こえませんとか、もつとちゃんと

謝つてくださいとか、

これが当時我が校の伝統となり、謝る行為の大切さを学んだ。お笑い界などでこの手のコントが使われるが、あれは間違いなく女子が生んだ歴史だ。

その女子。結構気分に波がある。ある日普通に話しかけたら気分の悪い態度をとられたので、『なんやねん。その態度。』って言つといきなりブッキングされた。

あまりにムカついた私は、とつたに腰につけていた立笛を振かぶり脳天にくらわせた。

あまりの衝撃に乙子はうずくまりそのまま泣き続けた。

両親も呼ばれ謝罪。なんとか許してもらえたものの、たすがにやりすぎたと反省した。

乙子とは元々仲が良かつたのでその後きまずい日々が続いた。

20歳くらいに再開しその時の話をしたついでに、もう一度きちんと謝つておいた。

今回は1回で許してくれたので安心したが、今振り返ると本当にとんでもないことを

するやつだと思う。

もしあの日に帰れるなら、あんなことをしないでもっと女の子に優しい男になるのに…

とはいえ今が既に優しくないから、まずは今の自分から改善するべきですね。

乙子ちゃん。あの時は本筋じめんなさー。この場を借りて再度お詫びします。

*

恥7『格好付けの緊張』

最近の私の分析によると、緊張する原因は大きくわけて2つある。一つは目標に対する期待と不安からくるもの。試合に勝ちたいとか、成功したい、評価されたいというのが是に当たる。

もう一つは、最初のものに似ているが異なる。それは良く見られたいという気持からくる

緊張だ。前者は目標にたいしての前向きな気持からきている緊張であるため、案外うまく

作用することがある。

しかし後者は少し違う。だいたいいつも作用しない。必要以上に自分にプレッシャーがかかるし、いいところを見せようとこう気持が周りのことを気にさせるためがむしゃらに挑めない。この後者の緊張と固い絆で結ばれていたのが若き日の私である。

今も若干その名残はあるが、かなり軽減されてきたと思つ。特にスポーツの時にこの緊張という病に侵される。

そんな風になつたのは多分喜怒哀楽をしつかりと出していなかつたからであろう。

特に哀の部分。当時泣くことは格好悪いことと思つていた私は人前で泣けなかつた。

泣いたら負けで、弱い人間だと思つていた。それと同じように、こわいという感情に関しても表現したり誰かに話したりできなかつた。だから緊張の原因にたどり着くことが出来ず、うまくいかなかつたら言い訳して自分の

格好悪さを隠していたように思つ。

格好悪くても一生懸命なほうが良い。今はそう思えるようになつてきただが、もうかれこれ20年

の間そんな緊張と付き合つてきた。

もしあの日に帰れるなら、もつとかけるだけの恥をかいてプラスの緊張感をしつかりと

味わえる自分に変わりたい。恥をかくことを恐れない気持があれば、もつと自分という人間を輝かせる気がする。

幼少編（後書き）

（現在の私の性格）

過去の恥集を語る前に、今現在の私の性格（他人から見た）について語らなければなりません。

現在の私は、簡単に言うと元氣で明るい、人見知りなんてしないタイプにうつつているようです。又、誰に対しても言いたいことを言う図々しいタイプでもあるようです。

私の裏を知らない人の評価だけを聞いたらとてもいい人でしょう。根本は変わっているかどうかわかりませんが、今までの失敗が私をそんな風に見せている

のでしょう。

今でも過去の私、現在の私、他人から見た私、本心の私、どれが本当の私がわからなくなります。

そんな私の31年間分の真実を読み、共感してもらったり、誰かの励みになつたりできたら嬉しい次第です。

2008年10月20日 ふるぽん

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3380f/>

もしもあの日に帰れたら

2010年12月30日02時09分発行